関西でSDGsプラットフォームが発足

国際協力は情熱と明るさで

2017年12月、「関西SDGsプラットフォーム」と「関西SDGs貢献ビジネスネットワーク」が、全国に先駆けて発足した。18年3月には、これらのキックオフ会が開かれ、320人もの参加者を集めた。この盛り上がりの背景には何があるのか。京都大学の木村亮教授が、関西で活発化するSDGsへの取り組みと、政府開発援助(ODA)を超えた途上国事業について、語った。

大阪万博のテーマにも

日本は現在、2025年に開催される国際博覧会(万博)において約半世紀ぶりとなる大阪開催を目指しており、さまざまな誘致活動を展開している。この大阪・関西万博のテーマは、「SDGsが達成された社会」と、「日本の国家戦略Society5.0」だ。Society5.0とは、これまでの工業社会、情報社会に続く新たな経済社会を指しており、その社会の中では経済的発展と社会的課題の解決が両立されていると考えられている。

そうした中、関西SDGsプラットフォームは、SDGsの達成に向けて関西の民間企業、市民社会、NPO・NGO、大学・研究機関、自治体・政府機関といった多様な

アクターが参加するプラットフォームとして設立された。当面の目的は、①「関西において広くSDGsの重要性をアピールし、浸透させていくこと」、②「多様な分野のアクターが集うことで新たなネットワーク・連携関係が構築され、SDGsの達成に資する新しいアイデアや取り組みにつなげること」の二つだ。

SDGsの達成には、民間の技術・知見・資金の活用が不可欠であり、民間セクターが地球規模の課題解決に大きく貢献することが期待されている。ここ関西でも、自治体、民間企業、市民社会や大学・研究機関といった幅広いアクターが、水分野・医療分野・防災分野・ものづくりをはじめ、多様な分野で有用な技術・経験を有し

ており、我が国 のみならず開発 途上国を含めた 世界規模でSDGs の達成に資する 潜在性を有して いる。

関西SDGsプラットフォームの 構想は、そういった幅広いアク ターの多様な経験・知見を相互に 結びつけることで、持続可能な社 会の構築に向けた新たな取り組み を創出できるのではないかとの考 えから生まれたものだ。伝統を守 りつつ、新しいものを生み出す進 取の気性に富んだここ関西の地に おいて、こうしたプラットフォー ムの設立は未来志向の取り組みを ますます盛り上げていくだろうと 期待されている。

関西と言えば・・・

3月22日、関西SDGsプラットフォームの最初の分科会が開かれた。そこでは、ビジネスの視点からSDGsの推進を目指す「関西SDGs貢献ビジネスネットワーク」のキックオフ会合が行われた。会合を主催したのは、近畿経済産業局だ。国際協力機構(JICA)関西と関西広域連合と共催した。筆者も、この会合で行われた討論会のモデレーター兼パネリストとして参加した。

会場では、お堅い話ばかりが出てくるのかと思いきや、紹介されたのは、"お笑い"のエキスパート、吉本興業(株)の取り組みだった。

吉本興業は、「2030年を笑顔



3月22日に開催された「関西SDGsプラットフォーム」キックオフ会合

であふれる世界に! というキャ ッチフレーズの下、『国際社会の 一員としてSDGsに賛同し、"笑 顔"につなげる活動を通じてより 良い国際社会の実現に貢献・応援 する』という目標を掲げている。 筆者もその活動内容はよく知らな かったが、会合で吉本芸人による 白黒のPR映像『SDGsについて 考えはじめた人々』が上映された り、17人の吉本芸人が2分間で SDGsの17の目標をそれぞれ歌う 『SDGsのうた』がWEBページ で紹介されているのを見て、 SDGsにかける吉本興業の本気度 を感じた。まさに関西風の未来志 向の取り組みを一層盛り上げてい く活動であり、大きな拍手を送り たい。

きみの「眉間」は大丈夫か

筆者は土木工学の研究者であ り、特に構造物を支える地盤の力 学特性を研究している。怒られる かもしれないが、国際協力は趣味 として25年間、関わっている。

他方、本業として国際協力に携 わっている多くの関係者は、途上 国支援に一生懸命であるが故に、 眉間にしわを寄せて自分を追い込 んで仕事をされている。難しい横 文字の、一般の人には理解できな い用語を並べて、難解な議論して いるのだ。

筆者が今まで出会った有意義な 活動をしている人々は、自分の仕 事を非常に楽しく語ってくれる。 例えば、キックオフ会合で発言者 として参加された(株)わだまんサ

イエンスの深堀勝謙代表取締役 は、「胡麻で世界平和」と、明る く話されていた。同社はパラグア イで胡麻を生産している。深堀氏 は、「世のため人のために夢を持 つことはとても未来があり良いこ と だと信じており、それを文章 にして具体的な行動に移されてい る。「できない理由よりできる理 由を探そう」という言葉が好き で、「ゴマソムリエ」なる言葉を 編み出し、会合でも調理士の衣装 で白いコック帽をかぶって会場に 現れた。デパートの催事では、ゴ マソムリエ深堀氏自らが胡麻用の 杵臼で手づくりした杵つき胡麻を 振舞い大行列ができる。だが、中 小企業として自己資金だけで海外 事業を継続していくのには限界も あり、現在、JICAの中小企業海 外展開支援制度を用いて飛躍を図 っている。そんな深堀氏の眉間 に、しわはない。

現地のニーズを知ること

国際協力という観点からSDGs を見ると、大事なのはやはり現地 に赴き、現地のニーズを知り、具 体的な問題の解決策を考えるとい うことに尽きる。現地のニーズを 知らない限り、日本人らしいきめ 細かい活動はできない。

さらに重要なことは、関係者が 情熱を持って取り組むことだ。た とえプラットフォームを作り、 色々な業種・立場の人間が集まっ たとしても、情熱がなければ何も 起こらない。

関西のNPOや中小企業に関し



京都大学大学院 工学研究科 教授 (特活)道普請人 理事長

木村 亮氏

京都大学大学院工学研究科修士課程修了。京都 大学助手・助教授を経て、2006年より同大学国際 融合創造センター教授、2010年より工学研究科教 授。07年、土のうを使った開発途上国の道路整備を 行う(特活)道普請人を設立し、その理事長を務める

て言えば、私が知る限りでも、地 面の上に立てた高床式の環境衛生 式トイレ、子ども兵の社会復帰と 住民の職業訓練、母子手帳を活用 した健康推進、天然素材を利用し た水質浄化といった、発想を転換 した多種多様な取り組みが実施さ れている。「さまざまな業種・業 態の企業に活発に議論してもらえ る場を作り、多様な企業間連携の 形成とイノベーティブな共同事業 構想の創出を促進する」という関 西SDGsプラットフォームの目標 も、上記の問題意識の担い手がい る限り達成可能で、"関西パワ ー"を近い将来示すことができる と信じる。

*関西SDGsプラットフォームWEBサイト; http://kansai-sdgs-platform.jp/206

**吉本興業のSDGsの取り組み; http://www.yoshimoto.co.jp/sdgs/